

# 生活者の意識と行動

## 第1回(夏季)調査から

### — 関心のありか、不安のありか

三島 順子

#### はじめに「調査」についてのこれまでの経緯

当研究所では、「住まい・生活」に関して生活者が抱える問題、期待する将来の姿・方向、そのギャップを埋める解決策と今後のあり方などを分析・研究することを目的に、平成16年度(2005年1月)から、年に1回、全国の約10000人を対象に「生活意識調査」を行ってきた。これまでの調査では各研究員の仮説検証が調査の主な目的にすえられ、設問は「どう思いますか」と回答者の「意識」・「意見」を問うものが中心であった。第8回平成23年度(2012年1月)の調査を最後に、方針を見直し「生活者の意識と行動」調査と改めたのは、「意識」だけでなく、「どうしていますか」「どうしたいと思っていますか」と「行動」を問うことを調査に加えたからである。また同時に「留置記入依頼法」(調査票を渡し、後日、調査員が記入済みのものを外向いて受け取る)からインターネット調査に変更した。本調査では、意識を深く探りたいと考え、自由記述欄を使用した設問を初めて行った。今回のCELEアウトラットではそこから「関心のありか」、「不安に思っていること」の2点について紹介する。

#### 「生活者の意識と行動 第1回(夏季)調査」

● 調査期間…2012年8月24日～27日

● 方法…インターネットを利用したモニター調査  
(株式会社日経リサーチに依頼)

● 対象…全国の20歳～80歳の男女(学生除く) 3056人

#### 「生活者の意識と行動 第1回(夏季)調査」から

##### — 「関心のありか」

「設問」あなたが、今関心のあることは何ですか。以下の形式にあわせて、3つまでお答えください。何もない方は「何もない」とご回答ください。

最も関心があること	…	に 関 心 が あ る
2 番 目 に 関 心 が あ る 事 項	…	に 関 心 が あ る
3 番 目 に 関 心 が あ る 事 項	…	に 関 心 が あ る

頻出ワードを順位付けするにあたっては、表現は異なるものの、意図していることは同じといえるもの、例えば、「自動車」と「車」などは同じと扱っている。一方、「子育て・育児」と「子ども」を別のものとし

表1 男女別頻出ワード

男性全世代 頻出ワード トップ5 (n=838)		
順位	項目	件数
1	外交(領土・尖閣諸島・竹島)	162
2	健康	153
3	資産関連(株式・運用・資産・貯蓄・投資)	143
4	旅行	138
5	政治・政権	132

女性全世代 頻出ワード トップ5 (n=963)		
順位	項目	件数
1	健康	268
2	旅行	208
3	子ども	143
4	外交(領土・尖閣諸島・竹島)	101
5	子育て・育児	88

たのは回答内容が「子育て・育児」の場合は大半の回答がこの単語のみなのに対し、「子ども」の場合は、例えば「子どもの教育」「子どもの進学」「子どもの就職」「子どもの結婚」と内容が多岐に渡るためである。また、20代、30代の回答では「子育て・育児」が「子ども」より頻繁に現れるが、40代以降では「子育て・育児」より「子ども」の出現回数が多くなり、20代・30代と40代以降で頻出語句が逆転する。

男女別頻出ワードの上位5位(表1)を見ると、男性はどちらかといえば社会全般にかかわる単語が多く、トップ5に限って言えば、「子ども」や家族に関する記述が見られない。これは、後述の「不安に思うこと」でも同様の傾向が現れている。対して、女性は第3位と第5位に子ども(性)、育爺(孫育てに積極的に)にかかわる高齢者世代の男性)等の風潮はあるものの、子どもの世話については女性が主に担うことが多いといえるのではないだろうか。反対に男女に共通するのは「健康」であるが、出現回数で100回以上の差があり、女性の回答の特徴は「健康」一言の記述ではなく、「家族の健康」と書かれている傾向が男性より強く

(男性は8/153、女性は34/268)、「家族の健康」「自分の健康」のように複数欄に家族と自分の健康をあげた回答の8割が女性からであった。家族の健康を関心の対象にあげているものうち、ごく少数ではあるが、例えば、「親の健康」「夫の健康」

「子どもの健康」(62歳女性)というように3項目すべて、または3項目のうち2項目が自分以外のことで埋められている回答も見受けられた。女性の頻出ワードをよく見てみると「子ども」と「子育て・育児」がランク入りしており仮に、同義として足し合わせると健康に次いで2位となる。本調査では「関心のあること」について3点聞いているが、3項目とも自分自身に属することではなく、他の人のことで占められているというのはたしてもっともなことなのだろうか。いずれ、子どもは成長し、自分から離れ、独立し、伴侶は先になくなることもある。その時のために、今すぐとはいわないが、もう少し関心や時間を自分のことに振り向けてみてよいのではないだろうか。そして、それができる理由について、さらに深く調べる必要があると考えている。

次に世代別の特徴を見てみる(図1)。各世代に共通するのは多い言葉から順に「旅行」「資産関連(株式・資産・貯蓄等5語)」「外交(領土等3語)」「政治(政治等2語)」の4語である。世代ごとの特徴は、

図1 世代別頻出ワード(各世代トップ10)

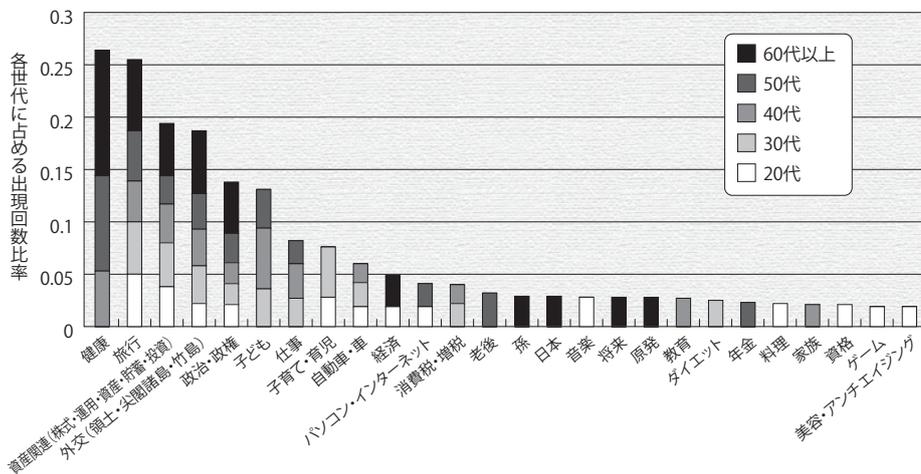


表2 世代別頻出ワード(20代と60代以上)

20代 頻出ワード トップ10 (n=1062)			
順位	項目	件数	割合
1	旅行	53	5.0%
2	株式・運用・資産・貯蓄・投資	40	3.8%
3	音楽	30	2.8%
3	子育て・育児	30	2.8%
5	料理	23	2.2%
5	領土・尖閣諸島・竹島	23	2.2%
7	資格	22	2.1%
7	政治・政権	22	2.1%
9	ゲーム	20	1.9%
9	経済	20	1.9%
9	美容・アンチエイジング	20	1.9%
9	パソコン・インターネット	20	1.9%
9	自動車・車	20	1.9%

1位から5位の  
6項目を足し  
合わせると  
18.8%

60代以上 頻出ワード トップ10 (n=1954)			
順位	項目	件数	割合
1	健康	192	12.0%
2	旅行	108	6.8%
3	領土・尖閣諸島・竹島	96	6.0%
4	株式・運用・資産・貯蓄・投資	79	5.0%
5	政治・政権	78	4.9%
6	経済	48	3.0%
7	孫	46	2.9%
7	日本	46	2.9%
9	将来	45	2.8%
10	原発	44	2.8%

1位から6位の  
6項目を足し  
合わせると  
37.7%

多く、自分自身の生活や興味への具体的な回答(例えば、アイドルと書かれているのではなく、アイドルの固有名詞があがる)が多く見受けられた。対して、50代、60代以降の世代では自身や配偶者の健康、家計といったこと以外は「世界の○○状況」、

第一に年齢が上がるにつれ、回答内容が「子育て・育児」から「子ども」へ移行していくこと、40代からトップ10入りする「健康」が、年齢が上がるにつれ、さらに上位になることである。第二に、頻出トップ10だけでは少し傾向がわかりづらいのだが、若い世代、特に20代ではひとつの単語に回答が集中せず、分散する傾向にあり、図にすれば低い山がずっと連なっていくようなイメージになる。出現するワードも、身の回りのことが多く、自分自身の生活や興味への具体的な回答(例

「日本の○○状況」といった抽象的で定義が広い回答が多くなっている。これは、例えば《表2》のように世代別の頻出ワードの上位項目を見ても明らかである。

## 「不安のありか」

【設問A】生活で不安に思っていることはありませんか。(ひとつだけ)  
1. 不安はある  
2. どちらかといえば不安はある  
3. どちらともいえない  
4. どちらかといえば不安はない  
5. 不安はない

【設問B】設問Aで「1. 不安はある」「2. どちらかといえば不安はある」と回答の方は、最も不安に思うことを自由にお書きください。特にない場合は「特になし」のようにご記入ください。

ここからは本調査で「不安」について行った右の設問A・Bに対し、設問Bの回答事例から紹介する。前項の「関心のあること」とは大きく異なり、全世代、男女のいずれでも、回答の大部分が一定の語句に集まる傾向がみられた(n=11936、設問Aで不安なことが何かあると回答した1961のうち、「特になし」の回答を除いたもの)。「関心のあること」とは異なり、単語ではなく、文章で回答されている傾向が強いことから、頻出ワードランキングではなく、ある一定のキーワードが出るものは同じ不安を抱えていると分類する作業を行った。例えば「収入が安定していない契約社員から正社員になれるか不安」の回答であれば、「お金」、「仕事」、「将来」の3点について不安であると判断した。その結果、これら3つを含む8項目の語句に集約できた(回答の97%が該当)(図2)。

男女別でみれば、関心のあることと同様に女性の心配事は家庭、家

図3 不安な項目(年齢層別)

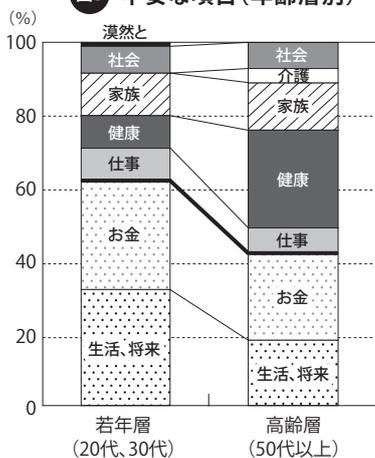
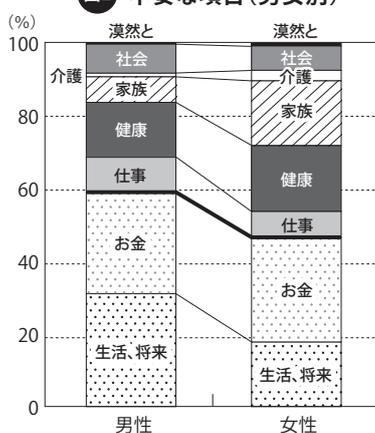


図2 不安な項目(男女別)



- 漠然と(なんとなく、いろいろ等)
- 社会(日本の経済、政治、防犯、放射能、天災等)
- 介護(介護、世話、認知症等)
- ▨ 家族(子ども、結婚、夫、妻、独身、親、母、父等)
- 健康(病気、体力が…、〇〇病、体調、病院等)
- 仕事(就職、定職、派遣、有期雇用、アルバイト、家業、自営業等)
- ▨ お金(家計、給料、収入、経済面、投資、ローン、〇〇費)
- ▨ 生活、将来(将来の生活、老後の生活、今後の生活等)

「人間誰でも加齢による身体  
の衰え、できれば寝込ま  
ずに、穏やかな終末を迎え  
うな30年後を憂えたもの、  
について」(男性30歳)のよ

族のことが多く、男性の心配事は家族より自分や仕事を含めた社会そのものといえる結果となった。これは見方を変えれば、現代の社会では男性が家計を担い、女性が家庭を担うことが多いことの表れなのかもしれない。男女ともに、約半数が「金銭的なことを含めた将来の生活」に不安を感じていることがわかる。

これらからわかることといえば、「関心のあること」は具体的で、詳細な内容が書かれているのに対し、「不安に思うこと」は抽象的で、漠然としていえることである。例えば「今の家があと何年もつか。できればあまりリフォームにお金をかけたくない」(男性29歳)のような具体的なことがあげられているものは少なく、「老後の生活費をどうするか

## まとめ

「関心のあること」は上位3項目、「不安に思うこと」は最も不安であることの1項目を尋ねるといふややアンバランスな調査ではあるが、両項目であがったものは日々の生活に必要な「健康」と「おかね」であることは当たり前だといわれれば、そうかもしれない。印象的なのは「将来」という言葉の使われ方である。「将来」は肯定的な意味だけではないとあらためて気づかされた。実際に、「関心のあること」の設問で「将来」が使われている回答は「不安に思うこと」で使われているほど多くはなく、肯定的な内容も含まれていた。しかし、「不安に思うこと」の設問への回答では「将来」と一言書かれているものが34例、「将来」を含んだもの(例: 将来の生活)は238例であった。様々なメディアで将来に対する不安感が大きくなっていると伝えられているが、あらためてそのことを意識させられる結果であった。本調査は今後も継続して行う。今後の調査ではこれらがどのように変わるか、また変わらないかの傾向を見るとともに、その要因についても掘り下げていきたい。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 研究員)

CEL